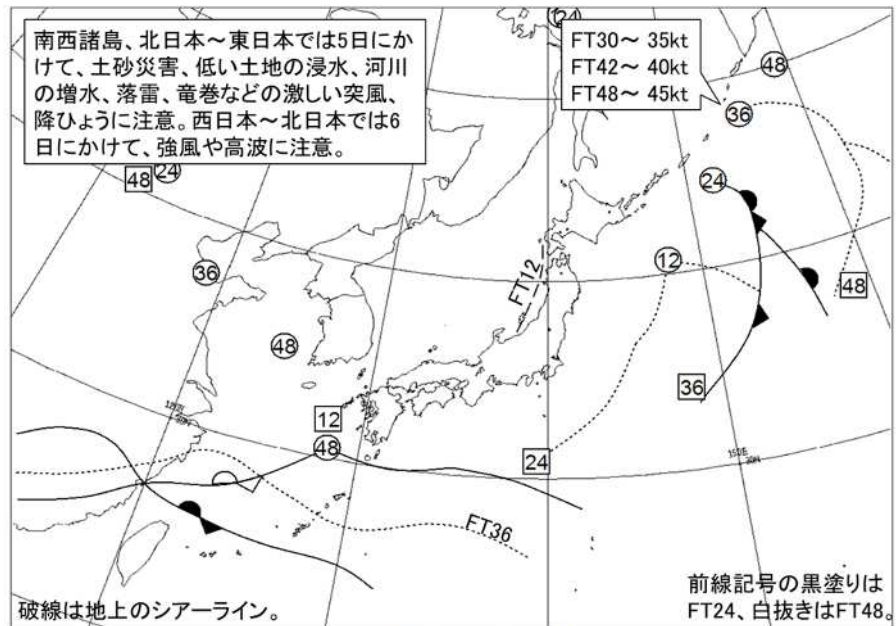


1. 実況上の着目点

- ① 日本海の 500hPa 5400～5460mにトラフがあって東進。対応する前線を伴った低気圧が三陸沖にあって東北東進。
- ② 南西諸島には南から下層暖湿気（4日09時の石垣島の高層観測では 850hPa 相当温位 343Kを観測）が流入しており、沖縄の南では対流雲が発達し、発雷を検知、非常に激しい雨を解析している。
- ③ ①の低気圧や前線、日本海のシアーライン周辺では気圧の傾きが大きくなっており、東日本～西日本では強い風が吹き、波の高くなっている所がある。
- ④ 中国東北区～朝鮮半島付近の 500hPa 5400m付近には -30°C 以下の寒気を伴ったトラフがあって東進。衛星水蒸気画像では循環が明瞭。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項③の地上のシアーラインが5日にかけて北日本を通過する。1項①の低気圧は、日本の東を北東進し、5日には千島近海に進む。これらの前線やシアーライン、低気圧に向かって下層暖湿気が流入し、日射による昇温や1項④の寒気を伴ったトラフの影響により、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨が降り大雨となる所がある。東～北日本では5日にかけて土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。
- ② 5日朝には 500hPa 5760m付近の強風軸に対応して華中～日本の南にかけて前線が顕在化し、6日には前線上の東シナ海に低気圧が発生し、日本の南にはキンクができる。このキンク上に発生する低気圧が6日夜には伊豆諸島付近に進む。前線や低気圧に向かって 850hPa 相当温位 336K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島では5日にかけて、伊豆諸島では6日は土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 2項①の低気圧や前線、シアーライン、2項②の低気圧や前線の影響で、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。西日本～北日本では6日にかけて、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本とするが、2項②の前線上の低気圧の位置などは、モデル間での違いや初期値変わりがあて不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時から24時間)：沖縄100mm。② 波浪(明日まで)：北海道・東北・関東・伊豆諸島3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。